

学会記事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています。

2016年度第8回執行理事会議事録

期日：2017年3月4日（土）13:00～17:00

場所：地質学会事務局

出席者：渡部会長 山本副会長 松田副会長
齋藤常務理事 安藤 杉田 辻森 内藤
中澤 平田 西 山田（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：岡田 緒方 坂口（渡部） 田村（渡部） 廣木（渡部） 小宮

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者13名、委任状5名、合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 本年度試験結果を踏まえた、大学入試センターへの意見書提出について（廣木書面）

意見書案を一部修正の上、承認した。3/4付にて郵送済み。

2. 巡検時に使用する車両について（緒方：書面）

会員運転のレンタカー使用について、今後は認めない方針を改めて確認した。LOCや巡検案内者への周知を徹底する。また、ニュース誌にもこの方針を周知することとし、文案は緒方理事と杉田理事が作成する。また、周知内容の文言等については弁護士に確認することとした。

3. 2017年度予算案（西）

最終的には次回の理事会（4/8）で審議し総会に提案するが、それまでに支出超過の原案を会計の方でさらに検討する。2017年度の大きな支出であるジオルジュと名簿については、今後の発行の有無も含めて4/1の執行理事会で再審議する。

4. 4月理事会の時間割及び議案

・フォトコンの表彰式を理事会開始前に実施し、スケジュールを以下の様にする。

執行理事会	10:30～11:45
（昼休み）	11:45～12:30
表彰式	12:45～13:45
理事会	14:00～17:00

・理事会審議事項は次のとおりとする。

1. 2017年度総会議案の決定（選挙規則の改定について追加をすること）

2. 2017年度事業計画

3. 2017年度予算案について

4. 各賞選考結果

5. 名誉会員選考結果

6. その他

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 子ども向け地質学デジタル教材の2次審査のヒアリング（2/23）（小宮）結果は4

月上旬予定。

2) 「地下空間の利活用に関する安全技術の確立について」小委員会設置の諮問（国交省社会資本整備審議会技術部会・交通政策審議会技術分科会）（2/6開催、出席者の緒方理事からの書面報告）

3) 地学オリンピック2016組織委員会の開催（2/24）（渡部）
開催報告、会計報告、今後の事業計画について。なお、残金による引当事業の計画内容は、会議での討議を受けて、年度内には改定版を各学会等に送付すること

4) 地球惑星科学連合への「学協会長会議幹事会規則（案）」についての意見（渡部）

日本地質学会としての意見を提出。

5) 自然史連合（代表 北里 洋）2016年度総会（12/23）の報告（委員：齋木会員より文書）

・現在の団体構成数は、39団体。出版物「ふしぎのお話365」は、出版から1年4か月で約6万部発行、台湾語、中国語の訳本も出版。2016年度産経児童出版文化賞を受賞（副賞30万円）。2017年度の講演会は、8月大阪自然史博物館で、11月福島で開催予定。

・8/19大阪自然史博物館での体験教室への出展依頼あり、近畿支部に検討を依頼。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼、他団体の募集等＞

1) 国土地理協会より学術研究助成の公募（4/3～4/21）。①地理及び関連分野研究、②地因・地名の学術的研究、③地理・地因・環境に関する普及・教育目的の活動研究。①、②は100万円、③50万円を上限←News、geo-flashに掲載

2) 第14回平成29年度日本学術振興会賞候補者（45歳未満、有博士）の推薦、応募受付4/7-12、学会への応募締め切りは3/24←HP、geo-flash、Newsに掲載

3) 2017年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」（1977/4/2以降生まれ）候補者の募集、8/31メ切←HP、geo-flash、Newsに掲載

4) 第57回平成28年度東レ科学技術研究助成金受領者として、応募数57件から11件が選出され、本会推薦の菅沼悠介会員が選出された。天野理事出席

5) 大阪市自然史博物館特別展「石は地球のワンダー～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」および「47都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」展（4/22-6/4）を同時開催の名義後援申請←承諾

6) 三浦半島活断層調査会より「城ヶ島観察会：深海から生まれた城ヶ島」（5/21）の後援名義使用申請←承諾

7) 日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ健全化システム分科会主催、

公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して」（4/27）後援名義使用申請←承諾した。

8) 粘土学会より第61回粘土科学討論会（9/25-27、富山大学）の共催申請←承諾

9) ジオ神奈川（蟹江会員）より観察会「城ヶ島と三崎の地盤隆起—1923年大正関東地震の地殻変動」（5/13）の後援名義使用申請←承諾

10) 原子力発電環境整備機構（NUMO）国際講演会「カナダにおける地層処分計画の現状と今後：ケン・ナッシュ氏」3/10開催案内は、周知の時間的余裕がないので行事予定表にのみ掲載。

<会員>

1) 今月の入会者（4名）

・2016年度からの入会（正会員1名）：杉崎雄一

・2017年度からの入会（院割2名）：山田晃也、関 笙

・希望入会年度確認中（8名）：丸橋 暁、浅井 瞳、李 雨囀、高橋 唯、田村友識、倉野紘彰、新山颯大、酒本直弥

2) 今月の退会者 なし

3) 今月の逝去者 なし

4) 2017年2月末日会員数

賛助：27、名誉：56、正会員：3714（正会員：3527、正（院割）会員：171、正（学部割）会員：16）合計 3797（昨年比 -79）

<会計>

愛媛大会のコンベンション協会の助成金申請は、申請条件について確認し申請する。

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）

（1）2/15にフォトコンの二次審査を行い、受賞数等は以下のようであった。

最優秀賞1点、優秀賞2点、ジオパーク賞1点、日本地質学会会長賞1点、ジオ鉄賞1点、スマホ賞1点、入選5点、佳作：10点

4. 学術研究部会（岡田・山田）

（1）行事委員会（岡田）

・125周年記念札幌大会については、125記念事業委員会の方針に基づき、窓口を一本化して札幌の実行委員会と話を進めてゆくこととする。

・東京大会の礼状：日本大学、応用地質、ダイヤコンサルタントに対して会長名での礼状文提出の確認要請（関東支部）。

（2）国際交流委員会（井龍）

特になし

（3）JIS、標準担当（中澤）

JIS原案作成委員会を開催予定（3/16）

（4）その他

5. 編集出版部会（中澤・田村・小宮）

（1）地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長、中澤担当、代齋藤）

1) 編集状況報告（2月28日現在）。

・2017年投稿論文 17編 [総説9 (和文9)・論説2 (和文2)・報告2 (和文2)・ノート1 (和文1)・巡検案内2] (昨年比?3)

査読中: 42, 受理済み: 17 (うち特集号10)
・123巻2月号: 論説3, 報告1, 講座1, 計60ページ (2/22校了, 3/2発送)
・123巻3月号: 論説3, 報告1, 計58ページ (入稿中)

2) 125周年記念特集号の編集状況
(2) アイランドアーク編集委員会 (田村)
1) 編集状況

Vol. 26 Issue1 (2017年1月): IGCP特集4編, 一般原稿1編

Vol. 26 Issue2 (2017年3月): 一般原稿6編 (計約60ページ) 予定

2) オンライン投稿の状況
過去半年 (2016. 9. 1 ~ 2017. 2. 28) の投稿数34件. うち新規投稿26件.
3) その他

ワイリーへの業務委託に伴い, 編集事務局の連絡先変更を行った. 新しい連絡先は以下の通り. また, ニュース誌3月号およびgeo-Flashで会員へ周知予定.

Island Arc Editorial Office

c/o Wiley Japan

Frontier Koishikawa Bldg., 4F

1-28-1 Koishikawa, Bunkyo-ku, Tokyo 112-0002 Japan

Email: Island_Arc_editorialoffice@wiley.com

Tel: (+81) 03 3830 1220 Fax: (+81) 03 5689 7278

(3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木・辻森)
・地質調査研修について: 中止のお知らせをHPに掲載 (文案修正確認) し, 徳橋会員に感謝状を贈ることとした.

・街中ジオ散歩in Tokyo (5/14) 「国分寺崖線と玉川上水」準備状況について: 国分寺市及び小平市の後援を得た. 広報を多摩地域のタウン誌に掲載依頼中, 募集は4月上旬予定, 抽選で当選者を決定する.

7. ジオパーク支援委員会 (平田)

研究者人材育成を考慮し, 地域内での地質調査についての配慮を関係者に要請していく.

8. 地学オリンピック支援委員会 (平田)

特になし

9. 地質災害委員会 (松田達)

熊本地震・1周年報告会 (4/15 熊本県県庁本館) へのポスター展示

10. 地質技術者教育委員会 (山本)

竹内真司会員が新委員として加わるようになった. 2017年度から天野委員に代わってJABEEを担当し, 地質学会からのJABEE運

営委員として出してもらうようになった.

11. 125周年記念事業実行委員会 (緒方, 渡部)

矢鳥委員長が出席の上, これまでの検討内容等の報告があった. 特に, 9月の記念大会の行事内容については, 125委員会としての計画案はないので, 行事委員会, 地元実行委員会, 国際交流委員会等で検討してほしい旨要望があった.

12. 県の石支援委員会 (辻森, 代斎藤)

・支援活動報告: 「ふしぎ発見! 鳥取砂丘 (鳥取砂丘調査研究報告会)」(当会后援) にて, 辻森理事は県の石の講演を行った. 産総研地質標本館で「県の石」新春特別展 (当会后援) の開催 (1/17-2/26), 東北大学総合学術博物館は企画展「県の石 (1/31-5/28)」を開催中.

2016年度第9回執行理事会議事録

期 日: 2017年4月1日 (土) 13:00~17:00

場 所: 地質学会事務局

出席者: 渡部会長 山本副会長 松田副会長
齋藤常務理事 安藤 緒方 杉田 内藤
廣木 西 (事務局) 橋辺

欠席者 (委任状提出あり): 岡田 小宮 坂
口 田村 辻森 (斎藤) 中澤 平田
(渡部)

山田 (渡部)

*定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者
10名, 委任状8名, 合計18名の出席.

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 2017年度事業計画骨子最終案 (確認)

・最終原案について逐条を検討し, 改訂箇所を指摘・検討した. 特に125周年記念事業については, 独立させて, 代表的な事業を列挙する. 次回の執行理事会で確定のうえ, 理事会に最終提案する.

2. 2017年度予算案 (西)

・案を仔細に検討し理事会にかけることを承認した. なお, ジオルジュの出版経費については, 収支バランスの悪いことが憂慮されており, 2016年度においても改善は見られないことから, 次回執行理事会で担当理事から説明を受け, 今期あるいは今後の出版の可否を検討することとした.

・Island Arc事務をWileyに外部委託した経緯. それによる編集経費の減収とロイヤリティーの増額については, 理事会への説明資料を準備する.

3. RFG2018 へのセッション提案について (学術会議IUGS分科会会長松本良氏から)

・理事会で紹介し, 提案を呼びかける. geo-

Flashで情報提供し, websiteにリンクを入れる

4. 巡検の車両利用について, 会員への周知文案

・学会行事として行う巡検におけるレンタカー使用について前回に続き意見交換した. 愛媛大会からは, 営業車での巡検が成立しないコースについては, 中止もやむを得ないこととする. 中止が決定した場合には参加申込者通知し, HP, News誌等でも早急に中止の広告を行い周知する. 愛媛大会のLOCにはこのことの確認を徹底し, 総会でも紹介することにする.

5. 理事会への対応

・配布資料等の確認をした.

・名誉会員の推薦 (3名) 資料

・各賞選考委員会の選考資料

・事業計画骨子案の最終版

・2017年度予算案

・Island Arcの編集業務委託に関する報告資料

・125周年事業に関する報告資料, 収支概要説明資料

・行事委員会関連資料

・地学オリンピックの報告書類

・地質調査研修の件

・RFGセッション提案案内

・夢基金及び科研申請の結果通知が間に合えば報告

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 「原子力総合シンポジウム2017」(福島原発事故と環境影響, 原子力利用の将来像などをテーマの予定, 2017/06/08開催) の共催に絡み, 運営会議に参加要請があった. 緒方理事が出席し, 共催の可否についてはそのうえで決めることとする.

2) JSTの「科学技術コミュニケーション推進事業, 未来共創イノベーション活動支援」への申請についてGSJから地質学会を共創機関として申請したいとの依頼があり, 承認した.

2. 運営財政部会: 総務委員会 (緒方・西)
<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1) 第12回「科学の芽」賞 (8/20-9/30) の後援依頼を承諾

2) 日本学術振興会より「育志賞」候補者の推薦依頼, 4/1現在34歳未満, 5/1現在博士後期課程在学者, 受付期間6/5-6-9, 学会メチ5/15

← News誌, geo-flash, HP に掲載

3) 日本学術振興会より「若手研究者海外挑戦プログラム」の募集, 3か月~1年程度の海外研究, 募集期間5/15-19, 博士後期課程在学者, 連続3か月以上海外滞在研究経験のない者

← News誌, geo-flash, HP に掲載

4) 山田科学財団: 2020年開催予定国際学術集会への助成, 募集期間2017/04/1-

2018/02/23

← News誌, geo-flash, HP に掲載

5) 藤原科学財団: 藤原セミナー (学問的には国際的水準の高いもので、基礎的なもの) の募集, 2018/1~2019/12までの開催のものが対象。申請受付4/1~7/31, 学会メ切6/30

← News誌, geo-flash, HP に掲載

6) 石油資源開発(株)国内天然ガス供給事業の推進強化のため組織変更の挨拶

<会員>

1. 今月の入会者 (6名)

・2016年度からの入会 (学部割1名): 中西啓祐

・2017年度からの入会

正会員 (1名): 吉岡 崇

院割 (3名): 小藤徹也, 池口直毅, 佐藤ひかる

学部割 (1名): 友直由衣

2. 今月の退会者・除籍者 (160名) について一覧を回覧した。

退会者 (96名) 正会員: 89名, 正 (院割) 会員: 7名

除籍者 (64名) 正会員: 63名, 正 (院割) 会員: 1名

3. 今月の逝去者 (正会員1名)

宮崎 浩 (3月2日)

4. 2017年3月末日会員数

賛助: 27, 名誉: 56, 正会員: 3560 (正会員: 3375, 正 (院割) 会員: 166, 正 (学部割) 会員: 19) 合計 3643 (昨年比 -64)

<会計>

・愛媛大会に際し, 松山コンベンション観光協会へ70万円の助成金を申請した。ただし, 正式な助成金額は決算の状況によって決定すること。

・2017年度予算案: 前回, いろいろ意見が出たが, 名簿及びジオルジュはこれまで通り発行の前提で予算立てをした。

3. 広報部会: 広報委員会 (坂口・小宮・内藤)

4. 学術研究部会 (岡田・山田)

(1) 行事委員会 (岡田)

(2) 国際交流委員会 (井龍)

・10/25 (水) -28 (土) 大韓地質学会大会 (済州市) への招待。会長 (代理?), 井龍が参加

(3) JIS, 標準担当 (中澤: 代齋藤)

・地質図に関するJIS原案作成委員会報告: 3月16日午後, 経済産業省別館1F共用会議室においてJIS A0204, 0205の改正案に関わる原案作成委員会が開催された。冒頭, 地質学会推薦委員の宮下氏が同委員会の委員長に選出された。変更点はおおむね産総研の提案通り了承されたが, 一部承認が得られず, 産総研側が改善案を再提案し, メール審議での承認を目指すことになった。

5. 編集出版部会 (中澤・田村・小宮: 代齋藤)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長, 中澤担当, 代齋藤)

1) 編集状況報告 (3月27日現在)。

・2017年投稿論文 27編 [総説10 (和文10)・論説6 (和文6)・報告4 (和文3, 英文1)・ノート1 (和文1)・講座1 (和文1)・巡検案内5]

・査読中: 42, 受理済み: 17 (うち特集号10)

・123巻3月号: 論説3, 報告1, 計59ページ (3/29発送済み)

・123巻4月号: 125周年記念特集号「深海掘削計画 (IODP) と深部掘削船「ちきゅう」10年の成果 I および II」総説5, 約78ページ (校正中)

2) 125周年記念特集号の刊行状況 (3/29現在)

・投稿・編集状況が遅れているので, 編集委員長より各世話人に督促を行った。今後は編集委員会で出版計画 (掲載号) を立て, 世話人へ具体的なスケジュールの通知とともに督促をおこなう予定。

(2) アイランドアーク編集委員会 (田村)

1) 編集状況

Vol.26 Issue2 (2017年3月): 一般原稿6編

Vol.26 Issue3 (2017年5月): 井龍特集号5編, 一般原稿6編 (計約88ページ) 予定

2) オンライン投稿の状況

過去半年 (2016.10.1 ~ 2017.3.28) の投稿数33件。うち新規投稿23件。

(3) 企画出版委員会 (小宮)

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木・辻森)

・2017年度サマースクール (8/9-10, 熊本県益城町) の開催準備状況についての報告

7. ジオパーク支援委員会 (平田)

特になし

8. 地学オリンピック支援委員会 (平田)

・第10回国際地学オリンピック大会 (三重) の報告書, 解説DVDの送付があり, 回覧した。

・第11回国際地学オリンピック大会 (フランス) への派遣代表者, 高校3年生4名が決定

・街中ジオ散歩の準備状況報告

9. 地質災害委員会 (松田達生)

・第1回防災推進国民大会実施報告書 (2016) を回覧

10. 地質技術者教育委員会 (山本)

特になし

11. 125周年記念事業実行委員会 (緒方, 渡部)

・記念表彰委員会を構成して表彰者を選考する予定 (表彰は2018年5月の式典)

・125周年記念大会 (札幌) の日程および行事内容をLOCとの間で確認の必要がある。

特に, 記念事業実行委員会では, 記念大会として, 海外の学術交流協定締結学会からの代表を招待し, 各海外学会の招待者から何らかの招待講演を頂くことを想定しており, LOC, 国際交流委員会, 記念事業実行委員会での情報共有・検討が必要である。

・記念事業寄付の進行状況および会員への寄付呼びかけについて確認し, 愛媛大会時に寄付受付ブースを設けることが, 本執行理事会で提案された。

12. 県の石支援委員会 (辻森)

・記念出版 (2017年度内の出版目標) の原稿執筆依頼は, 井龍理事によって進んでいる状況。

13. 地球惑星科学連合の学協会会議の参加報告

・学協会長会議規則について, 理事会に地質学会からの意見が紹介された。

・今後各意見について検討する旨が報告された。

2016年度第10回執行理事会議事録

期日: 2017年4月8日 (土) 10:30~12:00

場所: 北とびあ 901会議室

出席者: 渡部会長 山本副会長 松田副会長 齋藤常務理事 安藤 緒方 岡田 小宮 杉田 辻森 内藤 中澤 西 平田 山田, 向山議長 佐々木副議長 (事務局) 橋辺

欠席者 (委任状提出あり): 坂口 田村 廣木

*定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者 16名, 委任状3名, 合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 巡検の車両利用について, 高木弁護士との修文済み会員への周知文案 (杉田)

・現在計画あるいは実施予定の行事については, 検討中の車両使用のガイドラインを示し, 計画の再検討を要請する。

・規則とするまでにはないが (細則の下程度), この周知文案を理事会に諮り, 問題の認識を共有して, 今期の年会, 今後の巡検等を実施する場合の指針とする。

2. 熊本地震1周年の声明発表について (前震4/14, 本震4/16) (渡部・松田)

・坂口理事からの提案及び文案を受け, 3役で修文した文案を検討した。理事会に報告した上でプレス発表することとした。

3. 2018年度の総会日程の検討: 125周年記念式典との関係 (緒方, 佐々木)

・記念式典 (5月下旬) の日程に絡んで, 125

委員会から出ているいくつかの総会の日程案について、佐々木理事からの説明を受け、検討した。特に改選後の理事会開催もあるので、連合の日程(5/20-24)も考慮しつつ、会場確保等についても話し合った。理事会においても要検討とした。

4. 国交省の「地下空間の利活用に関する安全技術の確立に関する小委員会」からのアンケート(緒方)

・向山理事・緒方理事が作成した案を検討・修正の上、至急提出することとした。

5. 理事会審議事項最終案及び議事運営

・報告事項・審議事項については、議事次第にしたがって担当、資料、内容を確認した。

・行事委員会の大会準備状況について、特に2018年学術大会(札幌)の日程に関連する

情報交換を行った。

・ジオルジュ出版の収支状況と今後の発行についての検討は、坂口理事が交通の影響で急きょ欠席となったため、問題点を簡単に報告する。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 科研費が採択され助成金が内定。金額140万円(申請150万円)。市民講演会「地質学を活用して地域イノベーションを共創しよう」及び「地質情報展2017 えひめ」

2) 子ども夢基金(JST)の助成金が採択され助成金が内定。金額1002万円(申請1000万円)。同助成区分では10/35件採択。「ボクたちの“足もと”から地球の

ことを知ろう ～地層と地形が教えてくれるボクたちのルーツとミライ～」

2. 運営財政部会:総務委員会(緒方・西)
<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) (株)ダイヤコンサルタント新役員の挨拶状(社長 野口康彦氏ほか)

<会員>

1. 今月の入会者(1名)

正会員[1名]:末永仁良

2. 今月の退会者(正会員 2名)

磯村智香子、鹿野勘次

3. 今月の逝去者(正会員 1名)

梶間幹雄(2015年10月7日逝去)・中川 洋(逝去日確認中)

訃 報

次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員 相原安津夫(4月30日)

正会員 梶間 幹雄(2015年10月7日)

小池美津子(2016年4月28日)

堀井 篤(2016年8月21日)

宮崎 浩(3月2日)